

テクニカルガイド

Bタイプ

対象商品

- ハードマット
- クラフト白色
- クラフト茶色
- BOX型ツヤ
- BOX型マット



目次

1. 塗り足しと文字位置について	—————	P 3
2. デザインの配置について	—————	P 4
3. 各種の推奨サイズについて	—————	P 5
4. オブジェクトの分割について	—————	P 6
5. 画像について	—————	P 7
6. 白版について	—————	P 8
7. カラーについて	—————	P 9

1. 塗り足しについて

memo

塗り足し：裁断時のズレで白フチを防ぐため、仕上がり線外側までデザインを伸ばすこと。

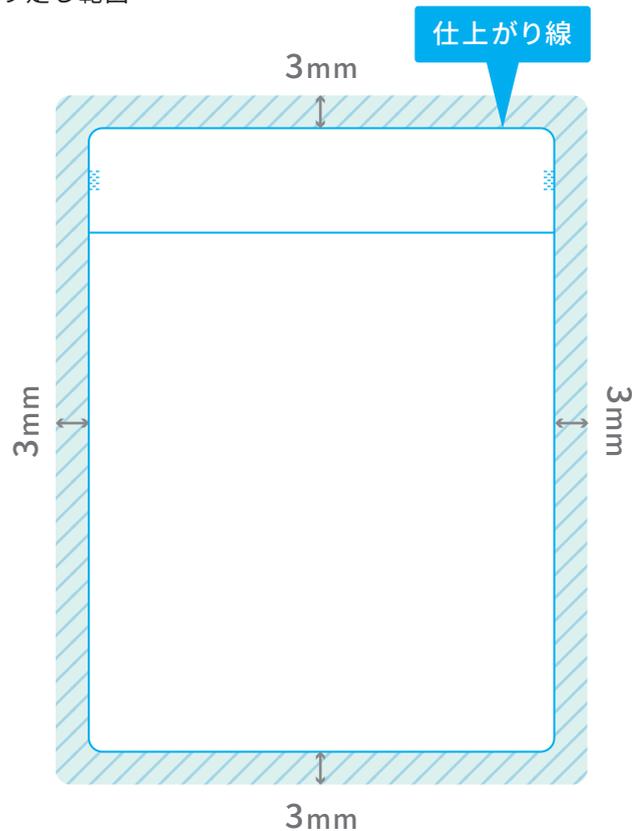
■ 塗り足し範囲

仕上がりいっぱいまで絵柄や背景がある場合

仕上がり線 — より外に **3mm** の塗り足しの作成が必要です。

※BOX形状の場合、塗り足し5mm

 塗り足し範囲



Point

本商品、【Bタイプ】の材質では**左右の単色の塗り足しは不要**です。

【Aタイプ】では製造の都合上、デザインの左右に単色の塗り足しが必須になります。

材質の変更をご検討いただく場合は、あらかじめご了承ください。



Bタイプ 左右の塗り足しが不要な材質

単色の塗り足しは不要です。自由なデザインで作成してください。

ハードマット

クラフト白色

クラフト茶色

BOX型ツヤ

BOX型マット



Aタイプ 左右の塗り足しが必要な材質

左右に繋がらないデザインは単色の塗り足しを作成してください。

アルミ(標準)

アルミ(厚手)

アルミ(最厚)

アルミ(マット)

ナイロン(透明)

レトルト三方袋

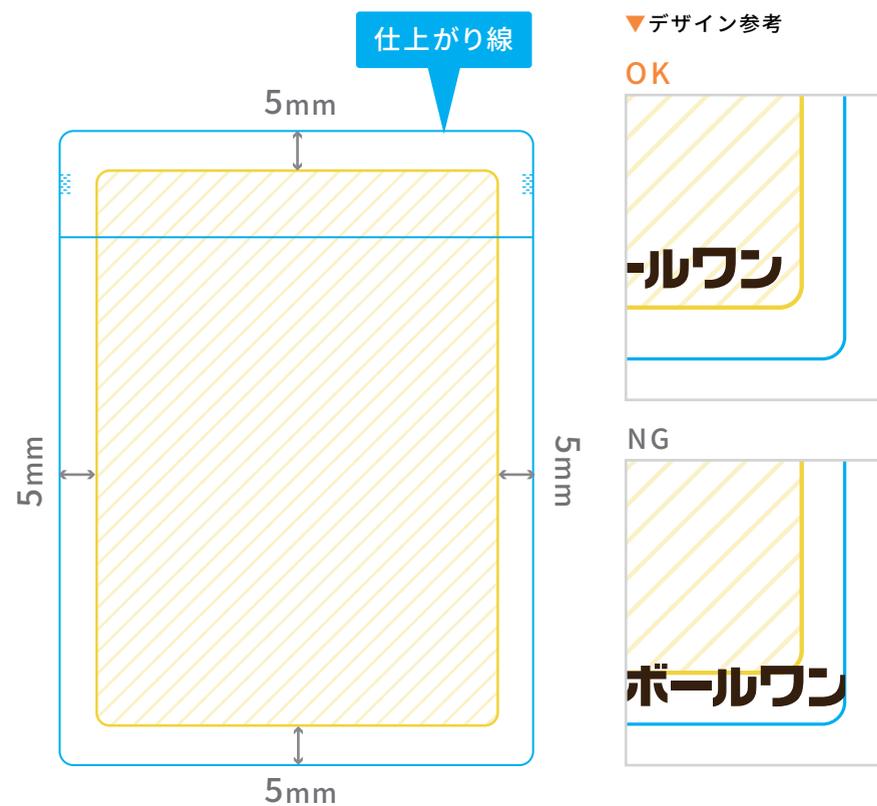
レトルトスタンド袋

2. デザインの配置について

■ 文字の位置

テキストや絵柄は断裁時に切れてしまわないように
仕上がり線 — より内側に **5mm** の範囲内に収めてください。

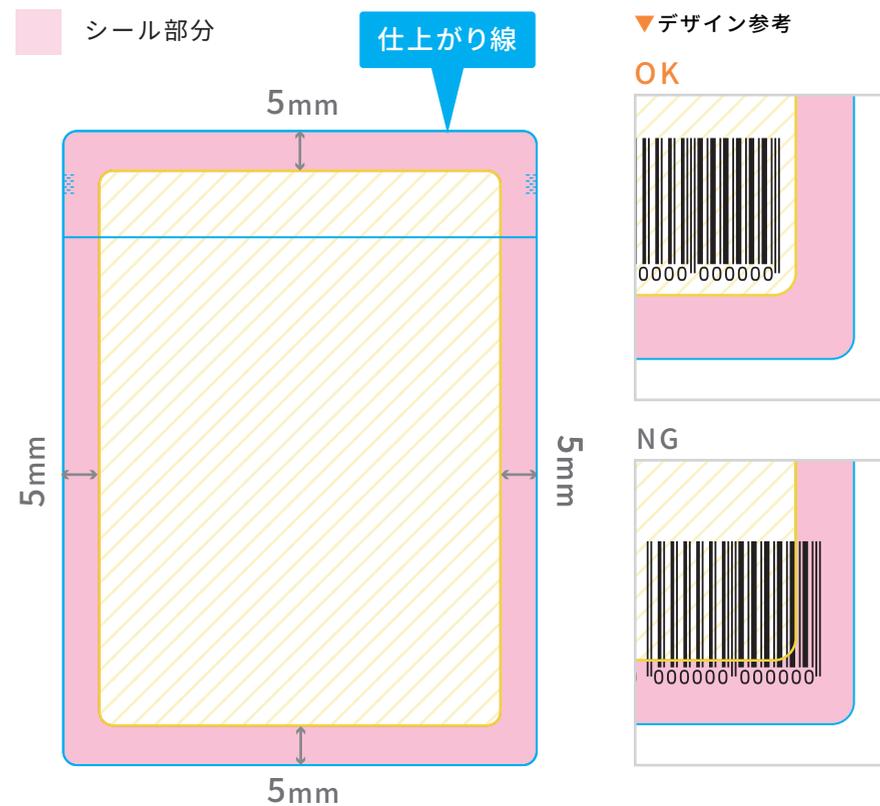
 文字の配置可能範囲



■ コードの位置

シール部にJANコードやQRコードが入ると読み取りづらくなるため
仕上がり線 — より内側に **5mm** の範囲内に収めてください。

 コードの配置可能範囲



3. 各種の推奨サイズについて

■ 文字の大きさ

8pt 以上推奨

参考 8ptのフォントサイズ

Point

最小5pt以上で作成してください。
食品表示のテキストは8pt以上で統一してください。

■ 線の太さ

0.5pt 以上推奨

参考 0.5pt

Point

小さい文字(明朝体の細い部分)や細い線を白抜きにすると更に潰れやすくなりますのでご注意ください。

■ プラマーク

原則6mm 以上

参考 6mm



Point

国内流通の場合はプラマーク必須です。
海外流通の場合は不要でも問題ございません。

■ QRコード

15mm 以上推奨

参考 15×15mm



Point

コードの複雑さによってはこの限りではございません。
お客様にて読み取りテストをお願いいたします。

■ JANコード

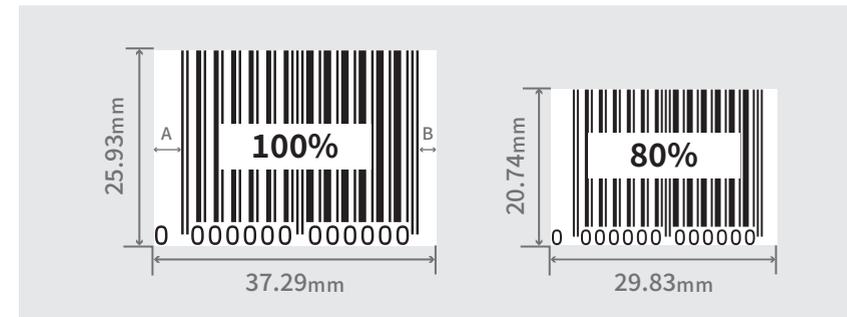
横37.29mm × 縦25.93mm 推奨

Point

国内流通に限り、基準から80%~130%の範囲で倍率変更が可能です。
海外流通の場合は変更不可です。

参考

【余白】 A:3.63mm B:2.31mm



■ トランケーションについて

最小10mm 以上推奨

Point

倍率80%以上のサイズから、バーの高さを削るトランケーションが可能です。
海外流通の場合はトランケーション不可です。

参考



4. オブジェクトの分割について

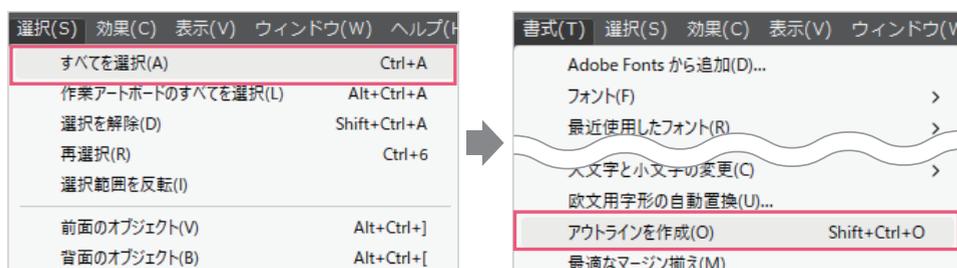
■ 文字のアウトライン化

配置されているフォントはすべて **アウトライン化** してください。

文字の崩れを防ぐために必要な工程になります。

memo アウトライン化：文字（フォント）を、図形（オブジェクト）に変換する処理のこと。

- 1 すべてを選択
- 2 メニューバー「書式」>「アウトラインを作成」



Point

アウトライン化されていない場合は再入稿となります。
レイヤーのロックや非表示で漏れないようご注意ください。

チェック方法

■ 文字のアウトライン

- 1 メニューバー「書式」>「フォントを検索」

ドキュメントフォント欄にフォント名が
記載されてなければすべてアウトライン化されています。



■ パターンオブジェクトの分割

パターンが使用されている場合、**分割・拡張** を行ってください。

絵柄の崩れを防ぐために必要な工程になります。

memo パターンオブジェクト：繰り返しの模様を定義・スウォッチに登録したオブジェクトのこと。

- 1 該当のオブジェクトを選択
- 2 「オブジェクト」>「分割・拡張」



Point

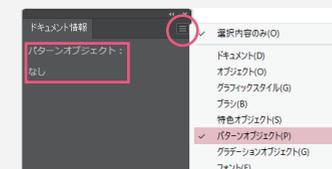
パターンオブジェクトが分割・拡張されていない場合は再入稿となります。
レイヤーのロックや非表示で漏れないようご注意ください。

チェック方法

■ パターンオブジェクト

- 1 すべてを選択
- 2 メニューバー「ウィンドウ」>「ドキュメント情報」
- 3 ③から「パターンオブジェクト」をクリック

「パターンオブジェクト：なし」と表記が出れば問題ございません。



5. 画像について

■ 画像の解像度

350dpi以上推奨

memo

解像度：画像を構成するピクセル（点）の密度。単位は dpi もしくは ppi。
数値が高いほど細かくきめ細かな表現となる。

解像度が低いと、粗くぼやけた印象の画像となります。

高すぎると、出力機器が処理できず品質が悪化します。

解像度350～400dpi程度、拡大率は **縮小70%～拡大130%** までを目安として作成し、ご使用ください。

Point

元が粗いデータだと、解像度のみを変更しても粗さは改善しません。
解像度が十分でも粗い印象の場合、ご確認をお願いすることがあります。



72dpi



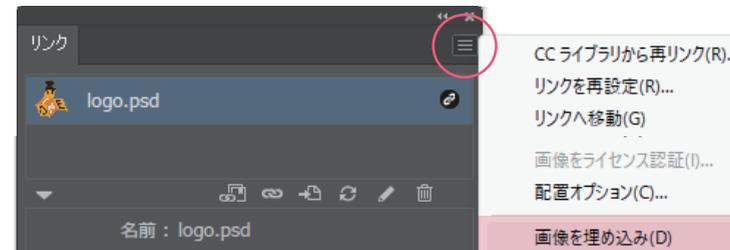
350dpi

■ 画像のリンクと埋め込み

画像は **すべて埋め込んでご入稿** してください。

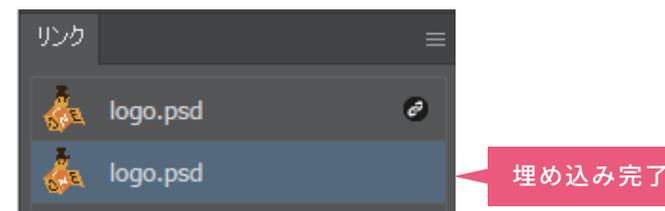
■ 埋め込み処理について

- ①メニュー「ウィンドウ」>「リンク」
- ②リンクパレット上でリンク画像を選択
- ③右上三より「画像を埋め込み」を選択



Point

埋め込まれていない画像には横にアイコン●が付きます。
アイコンが表示されていない場合は埋め込み完了です。



6. 白版について

memo

白版：活用することで地の材質を生かした表現が可能。白版を敷くと白の上にデザインが乗り発色が良くなる。白版がない場合は、地の材質がそのまま表れる。

■ 白版の作成について

白版ありの部分は **紫**

白版なしの部分は **白** で作成してください。

Point

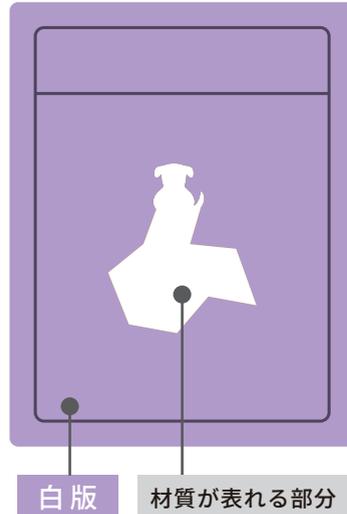
白版なしの部分はパスで抜かずに白色のオブジェクトを白版(紫)の上に重ねて配置してください。



▼ デザインイメージ



▼ 白版参考イメージ

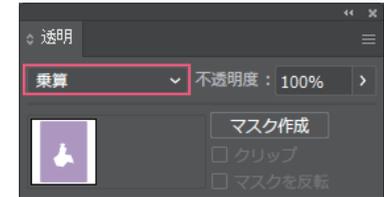


Point

白版はすべて白版レイヤーに入れてください。
全面白版の場合は、塗り足しと同じサイズで作成してください。

■ メタル調にしたいとき

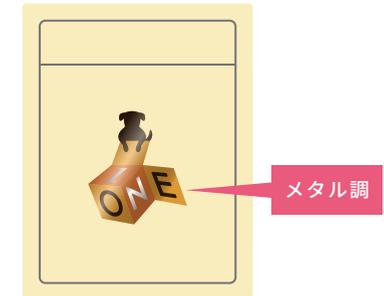
- ①オブジェクトを白色で作成し、白版の上に配置
- ②完成した白版は全て選択し、グループ化
- ③メニューバー「ウィンドウ」> 「透明」のプルダウンを『通常』→『乗算』に設定



▼ アルミ素材の参考



▼ 仕上がりイメージ



■ 白版に画像の使用は不可

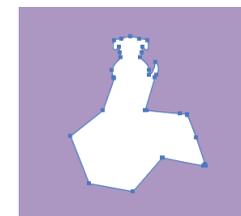
白版に画像は使用しないでください。

切り抜いた写真を用いて白版を作成する場合、必ずパスで作成してください。



NG

画像で作成



OK

パスで作成

7. カラーについて

memo

カラーモード：コンピュータ上での色の表現方法。CMYKは印刷用（インク）、RGBはモニター表示用（光）。
特色：既製のインキでは出せない色を再現するための、特別に調合されたインキ。

■ ドキュメントのカラーモードについて

■ 特色はNG

DICやPANTONEなどの特色は使用不可

特色が使用されている場合はプロセスカラーへ変換する必要があります。

- ① スウォッチパネルの特色スウォッチをダブルクリック
- ② カラータイプ「プロセスカラー」へ変更



■ カラーモードは基本的にCMYK

RGBで入稿された場合はCMYKに変換する必要があります。

変換の際、色の変化の大きさに注意してください。

■ パレット内の特色はすべて削除

スウォッチに特色がないか確認してください。

Point

赤・青・紫系・グレー・ベージュ・茶色・グラデーションなどは機械の特性上
色ブレを起こしやすく実際の印刷では印象が変わる可能性があります。

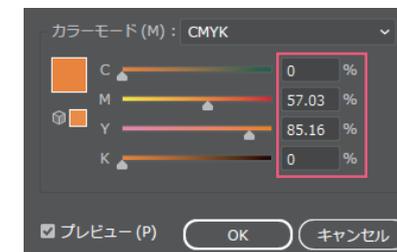
memo

インキ濃度：CMYKのインキの合計濃度。

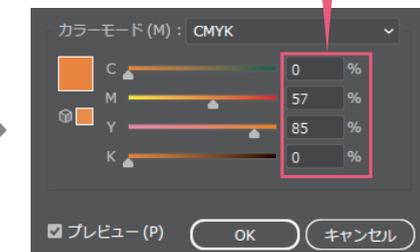
■ CMYKの数値を丸める

CMYKのカラー設定にて **小数点以下の数値** は使用しないでください。

NG



OK



■ 黒色について

■ テキスト・QRコード・バーコード

K100% で作成してください。

コード類は画像ではなくベクターを推奨します。

CMYKかけ合わせや画像の場合、読み取りができない可能性があります。

■ 広範囲の黒ベタ

背景など、黒ベタの範囲が大きい場合はリッチブラックをおすすめします。

リッチブラックを使用する場合は

C:30% / M:20% / Y20% / K100% に調整してください。